

市内でも新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、子どもが罹患したり濃厚接触者となったりし、園・学校が休業になりました。そのような状況の下、「感染を広げないこと」「学びを止めないこと」を大切にしながら、園・学校を誰にとっても「安心できる居場所」にするために、さまざまな取り組みが行われました。

一人一人がお互いのことを思い合うことで…

ある学校では、「今、罹患して休んでいる子が安心して学校に来られるように、どのような学習が必要か」を職員全員で話し合い、全ての学年で取り組みを進めることにしました。高学年では学習資料「みんなが教えてくれたこと」を活用し、学級で考えました。

〈児童の声〉



感染した人がいると聞いたとき、「私もかかるかも…」と思って怖くなりました。だけど、今一番つらいのは、感染した人だから、早く元気になってほしいし、「みんな待っているよ！」と伝えたいです。



「みんなが教えてくれたこと」の中に、「一人一人がお互いのことを思い合うことで、ちゃんと安心できる居場所ができるんだ」と書いてありました。本当にその通りだと思います。今、学校を休んでいる子が安心してできるように手紙を書こうと思います。

休んでいた児童が登校したとき、クラスメートが「〇〇ちゃん、久しぶり！」と駆け寄り、今までと変わらない笑顔で会話する様子が見られました。保護者からも「心配していましたが、子どもが『学校が楽しかった！』と言って帰ってきたので、ほっとしました」という声が学校に届けられました。

また、ある学校では休んでいた児童が安心して登校できるように「自分たちに何ができるか」を全てのクラスで考えました。各クラスから出された考えを児童会がまとめ、「みんなでいっしょに笑顔でいよう！」という言葉が全児童が常に意識できるように、掲示物を作成して玄関口に掲示しました。



子どもの方がしっかり考えていることに気付かされました

新型コロナウイルス感染症の拡大により、「感染することだけでなく、周囲の偏見や誹謗中傷から子どもや家族を守らなければ…」という思いになった人も少なくないのではないのでしょうか。

ある学校の児童が罹患したときに、その学校に自分の子どもを通わせている保護者は以下のような思いを持ちました。

〈保護者の声〉



うちの子は感染者でも接触者でもないけれど、習い事へ行ったときに他の学校の子から心無い言葉を言われたり、嫌な思いをさせられたりしないかな。

その心配から子どもに「しばらく習い事はお休みしようか」と声を掛けました。

すると、子どもからは次のように返ってきました。

〈子どもの声〉



学校の授業で新型コロナウイルスのことを勉強したよ。自分は感染していないし、人にうつすこともない。誰も何も悪いことをしていないから、習い事には堂々と行くよ。

その答えを聞いた保護者は以下のように話していました。

〈保護者の声〉



子どもの方がしっかり考えていることに気付かされました。学校で感染予防のことだけでなく、感染症に罹患した人やその家族などの思いを考える授業に取り組んでもらっているから、子どもがこのように成長できたのだと思い、うれしかったです。